

以前、ある番組を観ていたら、俳優の小泉孝太郎さんが出演していました。その中で野村克也さんの著書「野村ノート」の中に載っている言葉の話をされていました。以前から聞いたことのある有名な言葉でした。

心が変われば、態度が変わる。態度が変われば、行動が変わる。
行動が変われば、習慣が変わる。習慣が変われば、人格が変わる。
人格が変われば、運命が変わる。運命が変われば、人生が変わる。

元プロ野球選手である松井秀喜さんの「座右の銘」としても有名な言葉で、もともとは、ヒンズー教の教えだとか、心理学者のウィリアム・ジェイムズという人の言葉とも言われています。

私は、一番大切なことは、何事においても「心」だと思っています。どんなに困難なことでも最終的に本当の意味で人を動かすのも「心」だと思います。そして、心の持ちようでその人自身の生き方が変わるし、同じ事に対しても随分と感じ方が違ってくるのだと思います。

学校においては、中体連の大会も始まり、3年生にとっては最後の夏がやってきました。1日1日の練習に全力を注ぎ、本番を迎えます。1年生は自然教室へ向けて、2年生は修学旅行へ向けて実行委員が決まり動き出しています。3年生では教育相談が始まり、自分の進路への意識も高まってきていることだと思います。この1学期、子どもたちは体育祭をはじめとした行事や、日常の様々な活動を通して、また友達や色々な人との関わりを通してたくさんのことを学んだのではないかと思います。その中で子ども達は、「心」が、「意識」が、少しずつ変わってきたのではないのでしょうか。その前向きな気持ちを継続して持ち続け、よりよい行動をし、それがよい習慣になっていけば、大利中はもっともっと素敵な学校になっていくのではないのでしょうか。そのためにも、私たち教師自身が素敵な「心」と「感性」を持ち、日頃の指導や支援にあたるのが大切になってくると思います。

私が以前読んだ「先生！」という本の中には、たくさんの方の「先生」との出会いが書かれていました。その出会いは、「人生を変える」ほどの出会いであったと多くの方が述べています。「あのときの先生の一言が今の私をつくってくれました」とか、逆に先生という立場の方が卒業生から「あのとき、先生がああ言ってくれなかったら、今の私はいませんでした。私は、あのとき自殺を考えていたのです。」という内容の手紙をもらって号泣した話もありました。私たちの仕事は大変ですが、とてもやりがいがあり、私たちの発する言葉や行動は、子ども達にとっても、大きな影響があるのだと思います。それもすべて私たちの「心」と「感性」から出てくるものだと思うのです。

どんな仕事であっても、大変なことはたくさんあります。それでも私たちは頑張るしかありません。私は今までたくさんの方のことを、周りの先生方から、そして子ども達から学ばせてもらいました。今もそうです。ある資料に「教育＝共育」と書かれていました。「教育とは共に育っていくこと、共に成長していくということ」という内容でした。また、ある本には「教師が学ぶことをやめたら、それは仕事を辞めるときだ」と書かれていました。やはり、私達教師自身が柔軟な「心」を持ち、常に高い目標と志を持ち、日々努力し成長していくことが、子ども達の成長にもつながるのだと思います。

1学期も残りわずかとなりました。「チーム大利」…子ども達のために保護者の方と地域の方と力を合わせ頑張りたいと思う私でした…